

15. 市場研修会を核とした肉用牛産地の活性化

農林水産研究指導センター畜産研究部

○白根英治、大塚高司、本田文博¹⁾、鶴見 孝¹⁾

(¹⁾おおいた肉用牛振興協議会)

1 背景・目的

県土の7割を中山間地域が占める本県では、肉用牛経営が農業粗生産額の柱となる地域が多く、これまで様々な施策により草地・飼料基盤整備や増頭対策に積極的に取り組んできた。しかし、南九州等の強力な産地との競争は激しく、本県の特徴である斉一化された発育の良い体積のある子牛が数量的にも揃う市場の構築が求められている。

そこで、県内の生産者及び関係者が一堂に揃う市場において、県域で統一された技術情報等を提供できる市場研修会に注目し、肉用牛産地の活性化に取り組んだ事例を報告する。

2 活動内容

(1) 市場研修会の開催

広域として活動を始めた平成22年度から、市場研修会のあり方について検討を始め、研修内容については宮崎県高千穂市場や鹿児島県肝属中央市場の市場研修会の取り組みを参考にした。1年目は、口蹄疫の発生により中断もあったが、玖珠市場は東部・西部・北部局及び玖珠・宇佐家保、豊肥市場は中部・南部・豊肥局及び大分・豊後大野家保による研修会の実施体制の整備が図られた。2年目は、発育を重視した飼養管理マニュアルの普及定着を目指し、年間カリキュラムを県域で統一し、わかりやすく習得できるよう努めた。

(2) 推進体制の構築

肉用牛担当普及指導員や市場開設者等による会議等を通じて、年度ごとに実施した内容について生産者及び関係機関からの意見要望等を収集し、検証・改善を行っている。

3年目の今年度は、おおいた肉用牛振興協議会及び(社)県畜産協会の参画もあり、実施体制の強化が図られている。

3 成果

(1) 子牛の商品性の向上

市場研修会は平成22年度から現在まで、延べ52回継続実施され、生産者の飼養管理に関する意識・行動の変化を促し、出荷子牛(去勢)日齢体重1.00kg以上の割合は66.2%(21年度)から70.8%(24年4-9月)と増加した。

(2) 成功事例の収集と実証展示

寒冷対策で実績を上げている県下各地域の事例を収集し、「経営改善のヒント事例」を作成して生産者に周知。安価で効果の上がるものから実証展示を進めている。

4 今後の取り組み

生産者とのコミュニケーション及び情報提供の機会として市場研修会を有効に活用し、畜産研究部等との情報の共有化をさらに進める必要がある。

さらに、簡単手作り子牛ベットのよう、具体的に示す「みえる化」は、成功モデルとして、生産者への広がり非常に大きな影響があるため、積極的に活用すべきである。